

いんぎん新報

発行人 小野 務 平
印刷所 平活版所
印刷部 五號十二字詰一行四
廣告料 拾錢場所指定拾錢増
休刊日 日曜。大祭祝日。
代刊日 日曜。大祭祝日。
新刊 一月 金五拾錢
〇三號小ナツイヤ町平野高橋
社信通城警 所行發
番五 六四 話電

秋刀魚の大漁 と其供給法

本年鯉漁は餘りに好結果を見ずして終りを告げた、來たるべき秋刀魚漁は尤も水産家に對して期待されたものである、而して秋刀魚は瀾澤高調に達したる去る大の計劃は沙汰止となつたの鯉漁とは其趣きを異にして正八年頃各種の事業は異狀はまたしも或は解散の餘儀漁獲高の莫大なる點に於ての發展を示し其の結果としなきにさい至るやも知れず全く背壤の差違がある殊に群少の株式會社は殆ど限斯くの如き大資本家を糾合鯉は鯉節とし精製し得るにりなき迄に彬立し其數百三する會社に於て既に然りと反して唯直ちに鮮魚其儘販十餘を示した然るに其後溜すれば其他群少會社の運命路を開かねばならぬ處に秋刀魚漁期は活潑さが漁村に不況は大な恐威を以て各種も心細く此の危機に際して刀魚漁期の活潑さが漁村に不況は大な恐威を以て各種も心細く此の危機に際して

風前の燈にも似た 地方の群少會社

倒壊するもの踵を次ぐ
憂ふべき事業界の前途

本郡に於ける經濟界の最も瀾澤高調に達したる去る大の計劃は沙汰止となつたの鯉漁とは其趣きを異にして正八年頃各種の事業は異狀はまたしも或は解散の餘儀漁獲高の莫大なる點に於ての發展を示し其の結果としなきにさい至るやも知れず全く背壤の差違がある殊に群少の株式會社は殆ど限斯くの如き大資本家を糾合鯉は鯉節とし精製し得るにりなき迄に彬立し其數百三する會社に於て既に然りと反して唯直ちに鮮魚其儘販十餘を示した然るに其後溜すれば其他群少會社の運命路を開かねばならぬ處に秋刀魚漁期は活潑さが漁村に不況は大な恐威を以て各種も心細く此の危機に際して刀魚漁期の活潑さが漁村に不況は大な恐威を以て各種も心細く此の危機に際して

政戦の跡を眺めて

高久村の智囊
小名濱町の智囊
在小名濱 小野 生
降雨を冒して小名濱本部に來訪したのは矢吹氏外二名である、其用件は運動費五圓の要求であつた小野事務所の幹部會は理想選舉を嫌みを帯びた文句であつた本部では一人として脅威さ其筆蹟から見ると唯選舉事務所とあるが矢吹氏の筆な等をして劃策の裏を切らうた、此の書狀こそ正しくの裏書して確い人物である矢吹なりとせば、小野村長ら二十四日の晩再び矢吹氏先導山部外一名更に六百五拾圓五拾錢と云ふ精算書を衝きつけ請求に及むだ限るこの事である、何れも宛先居住判明したものに限るこの事である

平署管内の 狩人免狀

甲種は減つて
乙種は殖える
平警察署管内に於ける本年狩獵免許願の數を聞くと本日までの分は乙種二等十名乙種三等百十四名の合計百二十四名にして之れを昨年の同日までに比較すると二等に於て二名を減じ三等に於て六名の増加を示してあるが、三等は別として三等は昨年比し幾分増加を示すかも知れない

江名町の 震災追悼會

永崎の蓮乘院で
江名町の京濱地方震災殉難者追悼會は此程同町永崎蓮乘院に於て執行したるが反町慈宏院師の讀經に次ぎ中山町長及各區長の祭文篠原數を發してゐる「即ち何町るものを作製し即ち全市内十八日より普通通常郵便物は全部特殊郵便物は書留通常引受時刻證明、配達證明、切手別納約束郵便其他一般に於て唯小包は普通小包に

入社

高田 正次
右人社仕り候
十月十九日
いんぎん新報社

番頭さん 罹災者に化ける

今日書類送檢
平野村木町三瀧田屋旅館方雇人岡野源之助(三六)は去る九月十八日午前一時三十分頃字鍛冶町山野邊久利居宅に於て自分は東京の罹災民だから救済して呉れろと云ふが眞先に飲けるぞ」と云ふ警告の具表語でもあるなり即ち「女郎は徹毒プロバガンダストの過激派なんだから此奴に引ッ懸つたが最後、忽ちにして大切の鼻が眞先に名譽の戦死を遂げ顔の雜作は根柢から臺なしになつて了ひ雜作附投の札を斜に貼つておいても値段も附る人がなくなるぞと云ふ一種の標語と知るべし

文藝募集

晴れ
日十二月十
何事でも痛快に素直に書いたものを歓迎す
文藝編輯局

秋晴れの今日を

第一の聯合運動會

號砲の響きも空高く

八幡グラウンドの賑ひ

中央金庫へ

應募額成績

本郡は好成績で

平第一、二小學校の聯合秋季大運動會は既報した如く今十九日八幡小路の警中舊グラウンドに於て開かれた秋空は氣持ちよき程に晴れ渡つた運動の好日和である朝本郡に於ける産業組合中央金庫出資募集に就ては既報に一段の氣勢と人氣を呼び三千に餘る兒童は

小國旗

を張り周らし

た廣い運動場に整列し主會者の開會之辭に依つて華々しき運動の火蓋は開かれたスタートを切る號砲の響きは實に四千四百八十二口に

熱狂せしめてゐるが

市のより繰り込む觀衆は長

坂より裁判所前通りに塔をなしてさしにも廣き八幡グラウンドを埋め非常なる賑を呈してゐる (午後一時記)

石城政友の

定時總會

来る二十四日に

聚樂館で開く

石城政友俱樂部にては来る二十四日午後一時より平町聚樂館に秋季總會を開き政務の報告並に役員選挙の後諸事項を協議したる上各自隔意なき意見を交換して益々黨の結集を固ふする筈

朝の六時から

障子を盗む

不思議な盗人

今日検事局へ警備村大字藤原字藤代無職大井川(三)同農大井川政吉(四)藤原炭礦職工大井川喜作(二)無職大井

郡衙員據出

被災救済金に

川盛衛(二五)の四名は去る五月三十日同村藤代大井川建由の所有する畑中に入り梅、栗、菜葉並に柿の立木十本を盗み去り、九本代參拾八圓を盗材し越えて六月二十九日午前六時頃警備村藤代齋藤要助居宅に侵入したる上更に大井川建由所有の戸障子襖の數五十二枚代七拾參圓を窃取したと云ふので平署に告訴され平署取調の上本日書類検事局に送られたが朝の六時から戸障子を窃む者もあるまいから何等か裏には裏のある事であらうと

秋刀魚豊漁

水産試験場発表十七、十八

日の秋刀魚漁況報告に依れば中之作漁獲船一隻にて二千五百尾價格百〇五圓小名濱は二隻で七萬六千尾價格三千〇四十圓を水揚げしたと

暗雲低く迷ふ

郡内炭礦の窮狀

大會社も可成りの苦境

本郡炭礦界は近年稀なる不金の如きまで言を左右に況に際會し動搖の色あるは支拂に應じないと云ふの屢報の如くなるは各大炭礦に於ては此際失業者を遣出すは如何なる事變に遭遇するやも圖り知れざるを以て極力失業者防止に腐心してあるが其の結果は往々にして労働者の心を激發せしむるの感なきにあらざるは實に憂慮に關しては樂観を許さざるも堪ざる處である即ち失業者を防止せんとするには不況の際とて如何にしても出来る限りの賃金の低下を圖らねばならぬ故に是に堪え得ぬものは勢ひ他に職を求めなければならぬ然るに古河炭礦の如き多年血と肉塊を重ねたる積立

拾得物一束

小名濱町字上挽町高橋ツエは同町地内に於て六拾三圓同町地内に於て壹圓拾三日同町地内に於て壹圓拾

本を拾得し同町竹町三吉二男小野信太郎は十一日同町地内に於て五十錢紙幣二枚在中の布製財布一個を平町紺屋町三六鶴沼三郎は十六日縣社境内に於て萬年筆一本外三點を湯本町開船積積カキは十日同町向田見張所附近に於て五拾錢在中草布一ヶ好間村大字北好間田澤ハキは去月三十日同町地内に於て四圓五十五錢在中草製財布

平町錫搔小路清次郎方森清一郎は十七日八幡小路地内に於て五圓十八錢在中の墓口一個を下小川村開場箱崎重雄は四日平窪村地内に於て絹製巻煙草一個と袋一個を拾得し何れも十八日平署に届け出た

花柳 植田町本 出たは姫福姐 出たは今度罷り 出たは今度罷り 出たは今度罷り

前横濱で左借をとつてたのが去んぬる九月一日の地震で命からがら逃げ惑ひ着いた處が奥州の門戸である我が平町……名前ですかハ「やつこ」と申します本名なんて聞かぬだけ野暮さ手森山ミツ子で今年が二十三歳と覺えておいて頂戴イッ

西洋料理 開業 多少に不御愛食あらん事を御願致します 常店の特長は カフエー トモエ 小名濱町上町 電話(呼出)第三八番

和 漆器 漆器 漆器 漆器

平町五丁目九番地 平醫院 院長 遠藤淺香

りなり誇の店當は速敏實確

番九話電 店商屋釜 目丁五町平

しな畧商るさ勝に賣廉品良

目丁二町平 店服洋やかな 番三〇二話電

酒は! 鶴仙 醇良清酒 釀造元松古屋本店 石城郡平窪村 電話二四一番

皮膚泌尿梅毒科 院醫部阿 町川新町平